

令和6年度 第1回 四街道市立図書館協議会会議録

日 時	令和6年11月27日（水）14時～16時
場 所	四街道市立図書館3階 会議室
出席委員	池田委員、浅沼委員、川又委員、大和久委員、大塚委員、重田委員、日野委員 山口委員
欠席委員	米元委員、森田委員
事務局	田島課長、齋藤館長、成瀬係長、小野主任司書、久保主事
傍聴人	なし

【会議次第】

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 日野会長あいさつ
4. 委員紹介
5. 会長および副会長の選出について
6. 議事録署名人の指名について
7. 会議の公開等について
 - 1) 会議の公開
 - 2) 議事録の作成
 - 3) 名簿の公表
8. 報告事項等
 - 1) 図書館協議会委員及び図書館職員体制
 - 2) 令和6年度図書館利用者アンケート結果
 - 3) 令和6年度図書館サービスの進捗状況
9. 閉 会

【会議経過】

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 社会教育課長あいさつ
4. 会長あいさつ
5. 委員紹介
6. 副会長選出
 - ・池田委員を選出
7. 会議の公開・議事録の作成・議事録署名人について
 - ・会議は公開とし、議事録の作成のため会議の録音、発信は要点筆記とする。議事録は押印廃止に伴い署名を求めないことになったため、発言者に議事録を確認してもらうこととする。

8. 報告事項等

(日野会長) 図書館協議会委員及び図書館職員体制について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) ～図書館協議会委員及び図書館職員体制について説明～

(日野会長) 委託契約に関しては来年 9 月が満了ということで、次の契約のことも検討いただくということですね。

委員の皆さんからいかがでしょうか？よろしいでしょうか。

先ほどおっしゃっていた通り、少数精鋭でやっていただいているので非常にパフォーマンスが素晴らしいなと思いながら伺っていました。

続いて報告事項 2) ということで、令和 6 年度図書館利用者アンケート結果について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) ～令和 6 年度図書館利用者アンケート結果について説明～

(日野会長) ありがとうございます。委員の皆様からご意見、またご感想をお寄せいただければと思います。いかがでしょうか。

私からいいですか。アンケート結果についてはホームページで公表されるという理解でよろしいですか。

(事務局) はい、予定しております。

(日野会長) はい、ありがとうございます。あと、「来館しやすい時間帯」の所で、例えば、年代別で、把握されていたら伺いたいのですが、どのような分布でしょうか。若い方々は夕方がいい、などあるかなと思うのですが、その辺りどうでしょうか。

(事務局) 把握してはいます。が、たしかにパイとしては少ない感じです。

(日野会長) なるほど。学校帰りの 10 代の方々が大体夕方以降になるのかなとか、その辺り分かると有難いと思いました。

委員の皆さま方から、いかがでしょうか。

(川又委員) 滞在時間ですけども、30 分以内が一番多いのですが、30 分という時間が、何の目的で来ているのかがちょっと分からないです。

(事務局) ご本人じゃないと来館の意図は分かりませんが、おそらく目的の本を探す、借りた本を返すということかと。

(川又委員) ちょっと短いかなという気がしました。

(日野会長) 確かにちょっと短い感じはしますね。

(川又委員) 本を探すだけなのかなあと。

(日野会長) 企画・イベントがあれば、長時間滞在される余地はありますよね。

(事務局) おそらく、昨年度から取り組んでいる事業など鑑みると、滞在時間は増えているような気がするんですけども、年齢層によってはコントラストがあるかもしれません。

(日野会長) はい、ありがとうございます。1 か月の読書冊数が、「10 冊以上」が 49 名ということなんです、重田委員、いかがですか、この辺りは。

(重田委員) そうですね。本の内容にもよりますけど、自分の関心のあるテーマとか、あるいは長編・短編・詩とか種類にもよりますし、時間の中で、きっちりと色んなものを自分の中に入れて、またアウトプットするような、そういう習慣性がつければ、若い時も年を取った時も楽しみが増えると思うんです。たべになる、ならない（学生は参考書、サラリーマンは実用書、高齢者は人生の何かなど）の種類は違いますが、一番は読書の楽しみだと思うんです。楽しみを一度身につけると、一生涯、本と共に生きていける。そういう人が増えてくれるのが、ひとつの大きな、図書館の役割だと思います。

(日野会長) ありがとうございます。読む喜びや楽しさっていうところを学校現場でも共有いただくことは重要かと思っています。

そういう点では池田先生、いかがですか。

(池田先生) はい、市の方でも子ども読書活動推進計画というものがあり、市内小中学校は、17校ありますが、どの学校も本を読む時間を作っています。毎日やる学校もあれば、2日に一度という学校もあります。読書が好きな子は進んで図書室に行って、たくさんの本を持って帰る子もいれば、なかなか借りられない子もいます。ただ、読書をする機会を学校として作っていくことは大事だと思っています。

すみません、話がそれますが、電子図書館の利用数が少し減ったということだったのですが利用しているのは年齢層としてはどうでしょうか。若い人が多いのでしょうか。

(事務局) 去年は小学生の利用が突出して多くなっています。

(池田先生) 1人1台タブレットを導入した時に、市の教育委員会にいました。電子図書館のサービスが始まるということで市内小中学生の全部のタブレットの中に、電子図書館につなげられるようにデスクトップ上に入れました。図書館の方にご尽力いただきまして、現在、配付しているタブレットつながるようになっていきます。

今申し上げましたように、本を読む時間に自分でそこをクリックして借りて読むという子も中にはいたと思うので。読書ができるように意図的な仕掛けも必要だと思います。

(山口委員) それに関して、電子書籍が全国ですごい勢いで広まっていて当館でもコロナの時の4年前に始めたと思うんですが、電子書籍の一番の問題点は、コンテンツであるということがよく言われています。確かに私も拝見していて、あまり借りたい本が無いかなと思うんですけど、もちろんお金が関わっていることですが、コンテンツの充実という点では、何かお考えはおありになるのでしょうか。

現状、何か問題点としてとらえていますか。

(事務局) はい、お答えいたします。電子書籍はタブレットであったり通勤電車の中でスマートフォン またはパソコンの画面で見ることから、細かい字がいっぱい詰まっているというものよりも、見て、ビジュアルという点でも楽しめるものというので1冊1冊確認しながら選んでいるところでございます。また、出版社の偏りというのは大変大きな問題になっております。巷のベストセラー作家の作品はほとんど購入することが難しい状態です。

非来館型サービスということで 図書館への足が遠のいている 世代 40代 50代の方の興味を持っていただけるような本選び、限られた資料の中からそのような本を見つけて、また予算も限られることから月に十数冊となりますが工夫して購入しているところでございます。

(日野会長) はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか？電子書籍についても希望がおりだと思いで、今後の課題として検討を進めていただければと思います。出版社によっては叶う、叶わないといったところもあろうかと思しますのでこの辺りはまた調整をさせていただくということですかね。浅沼委員、いかがでしょうか。

(浅沼委員) ちょっと視点が変わって申し訳ないですけども、来館の頻度というところで、初めての方がアンケートに答えるのはなかなか難しいと思いますが、初めての方が次につながるというのがきっと理想だと思うんですけども、初めての方の利用率や人数は把握されているのでしょうか。そういう方へのアプローチなどありますか。

(事務局) アプローチという形になると、なかなか出来ていないかもしれません。

(浅沼委員) 月に初めての方がどのくらいいらっしゃるかという把握はされていますか。

(事務局) カードを初めて作成する、などの面では把握できています。

(浅沼委員) その方たちが定着していくと次の来館につながっていくと思います。ありがとうございます。

(日野会長) 大塚委員いかがでしょうか。

(大塚委員) 学校の図書館で司書やボランティアという立場でもあるのですが、子どもたちと図書館とボランティアの橋渡しを、今、できているのではないかと感じています。

(日野会長) ありがとうございます。橋渡しをしていただけるのは有難いことですし、今後一層、お願いしたいところですよ。

(大和久委員) 前回の時、16歳未満がゼロに近かったが今回は「21」あったのですが、この年齢のアンケートの人数と来館する人の比率というのは比例している感じでしょうか。

10代20代が思った通り少ないなという感想で、アンケートの改善点のところにも気軽な感じで紹介をして欲しいサークル作りだったり市内在住の大学生に向けた交流会やイベントみたいなものが少し書いてあったのを見て、確かに図書館サポーターを2年間やっているのですが、小学生や親子向け、年配の方向けが多いので、この年代向けのアプローチがあまり無いように思います。図書館に入ってきたところに四街道北高のものが貼ってあったり、以前は児童書の下の方に中学生のオススメ本があったりだとか、そういうものがこれからも継続されていくといいなあと思います。

その年代に対しても魅力を発信できるような取り組みがもてたらいいなと思いました

(事務局) 青少年の学習席の利用は非常に多く、それにまつわる資料の利用はあると思うのですが、そこに留まっているのが現状です。全国どこの自治体の図書館も難しい舵取りがあると思うんですけども、忙しい年代に新しいコンテンツをどう提供していくかということも課題だと認識しています。ただ、図書館のサポーターですとかそういった意見を取り入れながらやっていきたいと思っています。

(日野会長) ありがとうございます。新しい取り組みもされていますので、この辺りはあとでお伺いしようと思います。あと「図書館ホームページの使いやすさ」の満足度が高くなっているのは、リニューアルの後の結果でしょうか。

(事務局) 1か月ちょっと後の結果です。

(日野会長) リニューアル前より劇的にホームページが見やすくなっているので、非常に素晴らしい取り組みだと拝見していたところです。あと、公民館や図書室の統計を取っていただいたのですが、できれば移動図書館も統計を取っていただけると今後の施策にも展開できると思います。来年度可能であれば、アンケート項目に入れていただけるとよろしいかなと思いました。

その他、委員の皆さまからよろしいでしょうか。

続いて3) 令和6年度図書館サービスの進捗状況ということで、資料3に基づきながら事務局から説明をお願いします。

(事務局) ～令和6年度図書館サービスの進捗状況について説明～

(日野会長) ありがとうございました。36の施策をいただいているということでしたが、各委員からご意見ご感想をお寄せいただければと思います。

川又委員、お願いします。

(川又委員) 素晴らしい活動をされていると思うのですが、活動の広報、どのように広く知らせているのか。私は市政だよりしかみられないのですが、その方法を教えていただきたいです。

(事務局) 市政だよりをベースに、SNS、HPの運用は通常通り行っていますが、館内掲示板、公共施設へのチラシ配布等、おそらくスタンダードなやり方をしています。図書館サポーターですとか横のつながりの、口コミの力は大きいと思います。多く新任参画を増やすことによって、信頼性のある情報となって、それが伝播していくというのは実感としてあります。「あの人に聞いたから来ました」というのも確かにあります。

(川又委員) ポスターなどはどこかに貼ってあるのですか？

(事務局) ポスターなどの掲示もしております。3日前に絵本作家さんとのコラボイベントを行ったのですが、敢えて図書館で行わず、吉岡の大きいイベントに併せて我々が行って、事業を行いました。広報の側面がとて大きくて、双方が広報活動をするので相乗効果がありました。あと、普段図書館に来ない層がたまたまイベントに来たことによって、図書館のイベントを知ることになったりと、外に出ていくことで広報活動の広がりを生み出す工夫はしております。

図書館の方で、ブックスタートという事業を行っているのですが、赤ちゃんの3、4か月時健診の時に絵本をプレゼントするというもので、そこに出向いて、現地で図書館のPRをすることも行っております。

図書館に来たことが無いお母さん方もたくさんいらっしゃるので、そういった方にPRすることで、赤ちゃんの事業の参加者を増やすことにつながっていると思っております。

(日野会長) ありがとうございます。資料4ですね。資料4「セカンドブック事業」のブックスタートの所書いてありますね。あとは、どれ位配布できるかというパーセントの数字も書いてありますが、くまなく配布できるといいなと思います。その他、いかがでしょうか。

(大和久委員) ここでは書かれていなかったのですが、夏休み中、子供たちにクイズラリーが好評でした。毎回工夫して作られていて、分からないと司書さんに聞いてみたりと交流の場にもなっていたり、夏休みに来る楽しみになっていたりしました。3パターンあってすぐには終わらないので、また次の日来てみようかな、となったり、本を見ないと解けない問題があるので、新たな本との出会いになったり、すごく良い取り組みだと思いました。

あと、もう一つ。中央小学校で昨年から保護者の読み聞かせボランティアを始めて、今20名くらいのお母さんが参加しています。読み聞かせボランティアの講座に参加したという人もいれば、我が子が心配だから来たという方もいますが、お母さんたちも読んでいて楽しくなってきた、もっと読み聞かせの方法を学べたらいいよね、という声があります。大変忙しいと思いますが、来年度など一度小学校で、お母さんたちに簡単なレクチャーをしていただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

(日野会長) 読み聞かせの所は、大塚委員、専門の部分があると思うのですがこれからの担い手づくりという観点で何かご意見ありましたらお願いしたいと思います。

(大塚委員) 長年の大きな課題だなあとします。でも少しずつ活動を地道に、読み聞かせの大切さとか楽しさとか、メンバーがなかなか増えないので難しいですけど講座などでお母さんたちに紹介したりしています。子供たちがその楽しさを知ってくれたら、お家の方にも伝わっていくのではと思います。難しいなあとは、いつも思っていますけれども。

(日野会長) 地域の方々にお願いすることって非常に重要だと思うんですね。学校や行政機関だけではなくて地域と連携して市民共同を促して行って、読み聞かせがやはり楽しいということ、あと子供の笑顔がやっぱり一つの原動力になりますので、この辺りを見える化していくことが重要なのかなとは思っています。

学校の連携や30番の施策の点につきまして、池田委員から何かございましたらお願いしたいと思います。

(池田委員) はい。今学期も来ていただき、学校司書と図書館の方で一緒に話し合いをしていただくというのは非常にありがたいです。また、移動図書館車が本校南小にも来ていただいています。子供たちは本当に大喜びで、あの車にまず吸い寄せられ、ニーズに合わせた本を用意してくれているので、子供たちはキャッキヤ言いながら喜んでいきます。カードが無くて借りられない子も、何かを借りるつもり並んでいるような状況もあって見ていると微笑ましいです。そのような色々な機会を作っていただけるのは、とても有難いことです。

それから、今日本校の学校司書と話してきたことですが、各学年の廊下に国語の教科書に載っている作家さんの関連書籍などを並べているのですが、結局本校のものだけでは全然足りなくて、市立図書館に協力いただいて準備していただいています。

子供の人数分くらい本が揃っているの、5年生ならば、国語の教材で学ぶ宮沢賢治の本が並んでいるなどの状況は学校だけではなかなか出来ないで大助かりです。

(日野会長) なるほど。手厚いサポートをいただいて感謝申し上げたいということですね。

浅沼委員、いかがですか。

(浅沼委員) 本校は県立ですので、そういうやり取りは今のところはないのですが、この31番の、働く自動車そのままだが学校に来るっていうのがすごく素晴らしい取り組みだなと思っていて、本を広めるという以前に、お子さんたちって本当に車が好きじゃないですか。本に興味が無くても、そういう自動車が来てくれることで、それをきっかけに中身の本を。というところと、学習とちゃんと噛み合っているというところが本当に素晴らしい取り組みだと思っています。どこの学校にも行っていただけたらと思いますし、本校にも是非来ていただきたいと思います。

(日野会長) 可能です、とのお返事をいただきました。ありがとうございます。

山口委員、市民のための図書館に向けての課題ということで、いかがでしょうか。

(山口委員) 今までの話の流れと違う内容になってしまうのですが、今の館長さんになられてから、子供さんを中心としたサービスとか新しいサービスにとってもたくさん取り組まれていて、非常にいいと思っています。

もう一つ、視点を変えて「課題解決型のサービス」ということで、今のサービスの計画進捗状況を見しましても、この辺りには触れられていないかなと思うのですが、例えば医療健康情報とか、法律情報とか、それと具体的に結びつくものとして資料収集ももちろんあるのですが、全く言葉としても出てきていないのが、課題解決と結びついたレファレンスサービス。その辺りについては、いかがでしょうか。司書の方含め4人しかいらっしゃらないということで、大変難しいとは思いますが、何かお考えがあればお聞かせください。

(事務局) レファレンスサービスについてですが、クイックレファレンスも含めて、今インターネットが主流なのでほぼご自分で解決出来ることが多いのですが、困っていることがカウンターであった場合は私共の方で調べてお答えするような体制を取っております。また、課題解決型サービスは以前より謳われている所ですが、四街道市にとって何が課題なのだろうと常日頃悩み、絞り込めていない状況でございます。

(山口委員) 例えば質問などがあった場合は、レファレンスサービスとまではいかなくとも、クイックレファレンスでも良いのですが、統計は取っているのでしょうか。

(事務局) 「この本を探しています」という件も含めて、統計を取っております。

(山口委員) 具体的な数字で言うと、年間何件、などありますか。

(事務局) 年間で、1万673件となっております。

(山口委員) それは、いわゆる質問に対する回答の中でも、クイックレファレンス(あの本はどこにありますか?)なども含まれているということですよ。課題に対しての答え、というのとは少し違うでしょうか。

(事務局) そうですね。レファレンスというのが市民の方の興味・関心を通してのもので、課題解決型のもではございません。

(日野会長) 山口委員、よろしいでしょうか。課題解決すなわち純粋なレファレンスサービスの提供が有るか無いかというところで、今のマンパワーではなかなか対応できないのではというご指摘でしょうか。

(山口委員) そうですね。

(日野会長) そこが、重点施策の中に入れられるかという、現状のマンパワーからしても難しいと思うんですよね。そういった意味では、どこまで出来るのか検討を深めなければなりませんし、例えば、他の図書館との連携は一つの策とは思いますが。

大学の図書館を含め、他の図書館と相互連携をしながら我々のサービスも進めていく、というのは1つの在り方かなと思います。

山口委員の中で、何かお考えがあればお聞かせいただけますか。

(山口委員) 今、日野さんがおっしゃったように、大学などとの地域連携ですよ。大学と言っても、市内だけではなく千葉とか関東とかどんどん広げられるので。そういった地域連携かなと私は思います。

(日野会長) やはり、本市の図書館で不足しているところは補っていくというスタンスの連携ですよ。今後の

在り方ではないでしょうか。非常に貴重なご意見をありがとうございます。

重田委員、全体を通していかがでしょうか。

(重田委員) この前の読書会の時にもお話したのですが、広報がうまくいってないと参加した人が言うんですよ。自分はこういう風に知ったけど、他の人は読書会があることさえ知らないよ、と。ポスターなどは貼っているのですが、ホームページなどでうまくやれば多分大幅にオーバーするようなことになると思うんです。

それだけニーズはあるんだけど、市政だよりのスペースもすごく小さいし、せっかく開催するけど参加者が少ないと。気に入った人は 10 年ぐらいずっと来る。コロナで何年間か開催しなかったら、常連だった人も再開しているか分からずブツツと切れてしまった。今は新規の人で、私も春と秋 2 回やらせてもらっているが自分が読んだものをアウトプットしたいという欲求って非常に強くて、結構議論になったりする場がある。その場が今、定員に達しない。そうすると、私なんて 2 ヶ月前から色々準備してくるんですが、あんまり人数が少ないとちょっともったいないなあと。

うまく広報してもらおうと、人口 9 万人位の街だと 5, 60 名くらいは集まると思う。参加してくれている人は、面白いと言ってくれている。なんとか定員枠に達する位の広報をしてもらいたい。それが講師としての希望です。

大学の OB 会の読書会を年 4 回させてもらっている。会員 30 名のうち、毎回来るのが 10 数名。みんな、毎月でも開催してほしいと。自分たちが読んだ感想を発表すると、レベルも上がってくる。読書は一人でもできるし入り込めて幸せだという人もいますが、読書会の場合は +α がある。高齢者の生きがい論にもなる。

私たちの OB 会は 5,60 代、市民だと 3,40 代だったり年代の幅があるのでテキスト選びが難しい。合った本を選べば、その世代がやっぱり来る。たった年 2 回ですが、テーマの選び方や人の集め方、広報の方法、もう少し工夫してもらえると自分としてもやりがいが出ます。

(日野会長) その点、いかがでしょうか。事務局の方で、読書会、仲間作り、コミュニティ作りの中で何か工夫すべき事、あとは広報ですね。この辺り、もう一度回答いただければと思います。

(事務局) 読書会に限らずなのですが、気軽に情報発信できるツールが増えたゆえに情報が埋もれていくことがあり、使う側の意識に依ってしまう所があります。うまくいっている所が、逆にあるのかなと広報を行いながら感じています。一足飛びに解決できるような件では無いのかなと思うのですが地道な積み重ねの上にしか成り立たないのかなと思っています。

(重田委員) ここに「気楽な読書会」と書いてあって、私の妻も、出てみたいけど、人の前で意見を言うのが嫌だと。みんなの話を聞いていたい、それなら出たい、と。読書会ってみんなに発表してもらいものから、ハードルが高いのかなと。ここに書いてある通り、気楽な、手軽な に対し、今のスタイルは適さないのかな などを感じます。

(日野会長) 先ほど館長からもお話ありましたがイベントや祭りごと、そういった所へ図書館が出向いて、そこで読み聞かせや読書会など、こんなラインアップがありますよと伝えていくことがまず大事で、当然、世代間やレベルなどもあると思いますが、読む、聞く、知るなどといったベーシックな所はここです、ということをまず伝えていくことが大切なのかなと思います。様々なツールがあるなかで、やはり対面での広報も重要になります。館長がおっしゃったように、口コミなども大切にしながら多様な広報活動を進めていくということでしょうか。

地域とのつながり、自治会などでも図書館の意義を知っていただく機会、回覧板でなかなか図書館の情報は来ないので、そうした媒体も活用いただくのも効果的かなと思います。

(事務局) どうしても情報の発信者と受け手という構図ができてしまうのですが、受け側の意識というものがすごく影響してきてしまう。それを当事者化することで「受け」じゃない視点が生まれてくるので、出来るだけ何か取り組みをする時に市民参加など主体的に取り組んでもらう仕組みづくり、環境づ

くりは意識しています。

(日野会長) 受け手ばかりではなく主体的に情報を取りに行くような形も必要ですし、きっかけづくりを与えていくことも重要じゃないかなと思います。

(重田委員) 一点聞きたいのですが、昔会館で三浦哲郎さんという小説家が講演に来たことがあった。他にもイベントがあったのですが今は、文芸講演会のようなものはされていないのですか。

(事務局) ひとえに予算、という所です、工夫はしているのですが、やはり予算の規模感が出てきてしまいます。市としてどこに力を入れるのか、が見えてくる部分でもあるのですが。

(重田委員) 知名度が高い人はやはり、予算もかかるんですよね。予算の問題で、やはり文化講演が無くなってしまったのかなと。思っていた通りでした。

(日野会長) 文化講演会のようなものも、今 Youtube で配信しているものもかなりあるのでそういうものを市民の皆さんに知っていただくのも一つですかね。独自開催ではなく、作家さんも動画を使った PR 活動もされていますのでこの辺りの情報収集していただくのも一つかなと思います。

(重田委員) 今、作家は、本が売れない、講演会に呼んでくれないなどで困っているんです。そういう場を欲しがっている。出版社もそこまでする体力が無い。そういう意味では予算も考えた以上に安くはなっているように思います。ありがとうございました。

(日野会長) 議題としては以上なのですが、資料 4, 5 それぞれありますのでこちらについて事務局から説明をお願いします。

(事務局) ～資料 4 について説明～

(日野会長) ここで一回切りまして、委員の方からご意見ありますか。

(大和久委員) 来るきっかけを作る、すごく良い取り組みだと思いました。セカンドブックのおはなし会をしようとされていることもすごく素敵だなと思います。親子のサークル活動をずっとしているのですが、図書館は静かにする所だから、走り回ったり、静かに選べないんじゃないかと、色々な不安があって、図書館に行っていないお母さんがたくさんいて驚きました。

図書館の方から、来てくださいとメッセージを送れるということ、1 回目に来た時のウェルカムな雰囲気心が心に残ると思うのでとても良いと思います。

(日野会長) 4 番目の「くまさんくまさんにみてるの？」がダントツですね。

(事務局) エリック・カールは はらぺこあおむし で馴染みがあるのか、選ぶ方が多い印象ですね。

(日野会長) 読み聞かせ会の時に配布するというのは可能なんですか？健診でもらえなかった方について、読み聞かせに参加して、そこで読んだ本をプレゼントするというのは、ハードルが高いでしょうか。

(事務局) 対象者に一冊だけ という部分は崩せないで、その時に、まだ受け取っていない方がいたらそれは大丈夫です。

(日野会長) 持っていない方々にも門戸を広げるというか。

(事務局) はい、いつ来ていただいても基本的には大丈夫です。

(日野会長) あと、利用者カードはこの段階ではお作りはしないのですか。

(事務局) 作れますよ、と紹介はしています。作ると 10 冊借りられますよ、と。

(日野会長) そこで書いてもらっても良いですよ。続いて、5 番についてお願いします。

(事務局) ～資料 5 について説明～

(日野会長) ありがとうございました。新しい取り組みも入っていますし、人と人がつながる企画が多いなと思います。四街道市の図書館を軸にしながら、人と人がつながって新しいコミュニティができるという取り組みは非常に我々にとってもありがたいテーマだと思いました。

ホームページも非常に見やすく、例えば子どものページも入ってしまっていて、お子さんもアクセスできるようにするようなアクセシビリティの観点で、多様な、様々な方々がホームページで確認をして自分の欲しい情報、欲しい本を探索できるという仕組み作りも進めていることを拝見しまして、改めて

非常に感心をしているところです。

今までの説明につきまして、各委員からご意見・ご感想あればお願いします。

よろしいでしょうか。

あと、図書館創立41周年ですか。新しい図書館としてのスキームが出来始めているなと感心しております。

秋祭りのところはよろしいですか。

(事務局) 広報も兼ねて、図書館は今、どんどん外に出ていっております。併せて他者との関わりを深める中で図書館を知ってもらったり魅力に気づいてもらったりという取り組みを、去年今年と行っております。

ちょうど先週行ったイベントのチラシを付けさせていただきました。

(日野会長) ありがとうございます。かなり少数精鋭で多彩なイベントにも参画いただいているということで改めまして感謝を申し上げます。

では、時間になりますので最後に事務局からお願いしてよろしいでしょうか。

(事務局) 例年、本会議は年度に2回開催しております。今年度も昨年度同様、2月頃にまた皆さまのご予定を伺いまして開催できればと考えております。

9. 閉会

(日野会長) それでは、令和6年度第1回図書館協議会を閉会します。真摯なご意見をいただきまして皆様ありがとうございました。本日はお疲れ様でした。